

巻 頭 言

専務取締役

鉄鋼開発・生産本部長

江 本 寛 治



近年における溶接材料、溶接施工法、溶接性研究等の溶接技術の進歩、発展は目覚ましいが、これは一面では鉄鋼材料の進歩を支える基盤技術として発展してきたとも言える。

溶接との関連における当社鉄鋼材料の進歩は、造船用厚板の溶接性改善に始まり、片面溶接を可能とした大入熱溶接用鋼板、高性能低温用鋼板、最近では溶接熱影響部の硬化を軽減する TMCP（熱加工制御）鋼板等を開発し、また関連技術を応用した鉄骨用厚板の大入熱溶接用鋼板、さらに橋梁用厚板での予熱低減 HT-780 鋼板の開発等へ発展してきた。

一方、これらの新規鉄鋼材料の開発に伴い、それに最適な溶接材料、溶接施工法等の溶接技術開発を行うことになるが、鋼材の諸特性を十分認識し、さらに顧客における使用条件を考慮して対応する必要がある。これに対して、当社は鉄鋼材料メーカーであると同時に溶接材料メーカーでもあるため、有機的かつ迅速に各種鋼材に適した溶接技術開発を行うことができる。また最近では、顧客における一層の高能率化、省人化に役立つロボット化指向が強く、これに適した溶接技術開発が求められている。

本報では、最近開発した鉄骨分野での新溶接技術やロボット溶接技術等を紹介しているが、顧客の生産性向上に貢献できるものと期待している。すなわち鉄骨分野では、ボックスコーナースイーム部の深溶込み一層盛溶接技術、ビルトHの両側完全溶込み溶接技術を紹介し、次いで極厚リアクター溶接に適した高能率かつ高性能溶接技術、ロボット溶接用材料等を紹介している。各位の御批判をいただければ幸いです。

最後に、これらの溶接技術開発はお客様のニーズと御指導により完成することができるものであるため、今後ともより一層の御指導、御鞭撻をお願いする次第であります。